

2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議（第5回） 会議議事録

1.開催日時

2025年（令和7年）9月11日（木） 16：15～17：00

2.開催場所

大阪市役所5階 特別会議室

3.出席者

別紙出席者名簿

4.次 第

（1）万博TDMの取組及び検証結果……資料1

（2）TDM機運醸成に向けた取組……資料2

（3）会期終盤に向けた広報……資料3

（4）今後のスケジュール……資料4

5.配布資料

- ・次第
- ・出席者名簿
- ・配席図
- ・資料1 ：万博TDMの取組及び検証結果
- ・資料2 ：TDM機運醸成に向けた取組
- ・資料3 ：会期終盤に向けた広報
- ・資料4 ：今後のスケジュール

6. 会議議事

(事務局)

ただいまから、「2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議（第5回）」を開催させていただきます。

まず初めに、本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

それでは、開会にあたりまして、本円滑化推進会議の会長である吉村知事より一言ご挨拶をお願いします。

(大阪府 吉村知事)

本日は、皆さまお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

万博もいよいよ閉幕まであと1カ月余りとなりました。非常に多くの方が万博会場に来られ、そして万博を楽しんでおられて、今となっては万博が終わらないでほしいというような声が多く届くぐらいになりました。本当に多くの皆さま、関係者の皆さま、この万博において、こういった評価をいただいていることにつきましては、お礼を申し上げたいと思います。

そして、そういった状況の中で、最終盤に入ってきて駆け込み需要が増えてきております。今後さらに増える可能性があると思います。「万博は10月13日に終わる」、「今の万博が見られなくなる」、であるならば、もう1回行っておきたい、あるいは行きたいという方が非常に増える可能性があります。そうすると、交通混雑ということも想定されます。そういったことから、お盆明けの8月18日から閉幕日の10月13日までの平日において、万博TDMに取り組んでいるところです。今一度、企業の皆さま、あるいは府民、市民の皆さまに万博TDMの必要性のご理解、ご協力をいただくことが非常に重要になると思います。

本日は、6月ならびに8月に実施いたしました万博TDMの取組の結果、それから、会期終盤にかけての広報内容や、これからの方向性について事務局から説明をさせていただきます。本会議を通じて積極的な情報発信を行い、会期終盤のTDMの取組が重要であるという共通の認識のもとで、府内全域の大きな取組、方向性、機運を高めていきたいと考えています。

万博も残り1カ月余りとなりましたが、最後まで皆さんとともに進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、次第に従いまして、事務局から資料を説明させていただきます。

(1)万博TDMの取組及び検証結果

(事務局)

万博開幕以降、実施してまいりました万博TDMの取組結果及び会期終盤に向けた進め方についてご説明させていただきます。

1ページ目をご覧ください。

まず、鉄道の交通量の変動に関する検証結果となります。

検証の期間ですが、万博TDM取組期間である今年6月及びお盆明けの8月18日から8月29日といたしまして、比較する週を万博TDM取組前の直近の週である5月26日から5月30日としております。

検証の区間ですが、Osaka Metro中央線において最も混雑が予測されております「弁天町から朝潮橋駅」としまして、検証時間は平日朝ピークの8時台としております。

検証内容としてしましては、この「弁天町から朝潮橋駅」区間の混雑率に着目しまして、来場者輸送具体方針において設定されております達成目標120%との比較を行っております。

2ページをご覧ください。検証結果になります。

結果としてしまして、万博TDM取組週の全ての日におきまして、取組前よりも混雑率が低いことが確認できました。

具体的にはTDM取組前が平均120%であることに對し、TDM取組週の6月で106%、8月で101%でありまして、万博来場者が増加見込みにある中で、目標値の120%を下回る結果となっております。TDMパートナー企業や府市等の取組が効果の一因であるものと考えております。

また、資料に記載はありませんが、9月の1週目の混雑率を見ると約110%となっていることから、会期終盤に向けて働きかけの強化を図ってまいりたいと思っております。

次に3ページをご覧ください。

こちらは参考になりますが、中央線沿線主要集客施設や咲洲の府市部局の取組効果を把握するために、「Osaka Metro中央線のコスモスクエア駅及びトレードセンター前駅の降車人数の変化」を確認したものです。

結果としてしましては、こちらにつきましても、TDM取組前よりも、TDM取組期間の6月、8月の降車人数が少ない結果でした。

6月の月曜日の降車人数とTDM取組前週の差が少し小さいのですが、これは6月16日（月）に中央線沿線主要集客施設で大規模なイベントがございましたので、イベント来訪者による降車人数の増加によるものと推測しております。

中央線沿線主要集客施設におきましては、催事時におけるニュートラム迂回の推奨や混雑時間帯におけるオンライン授業を実施いただいている教育機関もございまして、引き続き、会期終盤に向けたニュートラム迂回等の取組への協力について働きかけてまいりたいと思っております。

4ページをご覧ください。

次に、万博会場周辺道路の交通量の変動に関する検証結果です。

期間につきましては、先ほどの鉄道の検証期間と同様でございます。

検証箇所につきましては、会期前の道路交通量予測におきまして、交通容量に対して最もひっ迫が予想されておりました「阪神高速道路湾岸舞洲出口」といたしまして、検証時間は、平日朝ピークの9時台としております。

検証内容としてしましては、この「阪神高速道路湾岸舞洲出口」の交通量の変化及び交通容量に対する交通量に着目し、検証を行っております。

5ページをご覧ください。

検証結果としてしましては、TDM取組期間中の6月におきましては、道路交通量の減少傾向を確認するまでには至りませんでしたが、8月におきましては減少傾向にありまして、これは一般交通の大型・小型車両、また万博交通の大型車両の減少によるものと推測しております。

また、道路交通量につきましては、多い場合でも交通容量に対して30%弱ほど下回っておりまして、混雑は発生していない状況ですが、今後は、会期終盤の需要増に加え、西ゲート利用促進策に伴い道路交通量が増加する可能性がございますので、引き続き、TDMの取組への協力を呼びかけてまいります。

6ページをご覧ください。

企業や個人の取組状況はどうだったのか、アンケートも実施いたしましたので、その結果をご報告いたします。

アンケートの実施対象としてしましては、TDMパートナーに登録していただいている企業に加えまして、駅利用者等一般の方を対象にアンケートを実施いたしました。

それぞれの回収数等は表にまとめさせていただいているとおりです。

分析手法といたしましては、「TDMパートナー企業」と「個人」の属性別に、6月のTDMの取組に関する結果を整理し、会期終盤に向けた取組に活かせるよう、とりまとめております。

7ページをご覧ください。

こちらは、TDMパートナー企業のうち、アンケートに回答いただいた企業の分布になります。

特に取組が必要となります中央線沿線区の本町以西である中央区・西区・港区や、会場周辺区であります住之江区・此花区が上位となっております、棒グラフの中、ピンクで示しておりますように「昨年のTDMトライアル時よりも多く取り組んだ」と回答いただいている企業もございます。

8ページをご覧ください。

こちらは、「人流」に係る取組状況になります。

TDMパートナー企業におきましては、昨年実施しましたトライアル時よりもさらに取組の割合を伸ばし、約89%と高い結果になっております。

一方で、個人では、トライアル時と比較し改善はされているものの、まだTDMを「知らなかった」と回答する方の割合も高いことから、会期終盤に向けて訴求力の高い広報につなげていく必要があると考えております。

9ページをご覧ください。

こちらは、「人流」に係る具体的な取組内容になります。

こちらは、企業と個人と特に属性に関係なく、「在宅勤務の実施」「時差出勤やフレックスタイムの実施」の取組が多い結果になりました。

次に10ページをご覧ください。

こちらは、「物流」に係る取組状況になります。

サンプル数は少し回答数が少ないですが、取組の割合は80%ということで、取組内容といたしましては、「混雑場所・ルートの回避」が多い結果になりました。

11ページをご覧ください。

こちらは、個人を対象にしたTDMの認知手段を示したのになります。

「WEB広告」が約40%、「電車内と駅ポスターを合わせた鉄道車両広告」が約66%と高い割合であることが確認されております。引き続き、会期終盤に向けたTDMの有効な情報発信方法として実施してまいります。

12ページをご覧ください。

こちらは、個人における「10月のTDM取組見込み」を示したのになります。

6月にTDMに取り組んだ方が10月も取り組むと回答された割合は、上の段になりますが、約91%と高い結果となりましたが、一方で、6月にTDMに取り組んでいない方で10月に「取り組む」または「取り組むことを検討する」と回答された方は約61%でございました。

会期終盤に向けまして、「取り組む」や「検討する」と回答された方に着実に取り組んでいただけるよう、また、「取り組まない」と回答された方への理解促進に向けた働きかけが、引き続き、必要であると考えております。

13ページからは参考資料といたしまして、今回積極的にTDMに取り組んでいただいた企業さまの取組事例の紹介になります。

13、14ページにつきましては、住之江区の咲州に事業所を構えておられます「株式会社LIXIL（リクシル）」と「ミズノ株式会社」になります。非常に高い割合で取り組んでいただきまして、人流に関する各種取組を実践いただいております。

15、16ページは、「関西電力株式会社」と「NTT西日本株式会社」の取組となります。非常に従業員数の多い企業となりますが、高い割合でTDMに取り組んでいただきました。

17ページをご覧ください。

こちらは、「株式会社ロイヤルホテル」の取組になります。ロイヤルホテルさまでは、人流の取組に加えまして、宅配便・社内便などの定期的な発送の頻度でございますとか、時間帯を調整していただいて、物流面での取組にもご協力いただきました。

今回紹介させていただいた5つの企業を含め、万博TDMにご協力いただいた企業の皆さま、大変ありがとうございました。会期終盤に向けまして、引き続きTDMの取組にご協力のほどよろしくお願いいたします。

次に18ページをご覧ください。

こちらは大阪府市職員の取組結果になります。咲洲・ATC庁舎に勤務する職員におきましては、6月1～2週目は取組目標3割を設定しておりました。それに対しまして、約46%、6月3～4週目や7月、8月は取組目標5割を設定しておきまして、約55%といずれも目標を上回る取組を実施してまいりました。

取組内容としましては、「時差出勤等」が最も多く、次いで「混雑時間帯の休暇取得」、「テレワーク」が多い傾向となりました。

19ページをご覧ください。こちらは、博覧会協会職員の取組結果になります。

夢洲で勤務している職員と、ATC・咲洲勤務の職員に分けてとりまとめておりますが、いずれも7割を超える取組を実施しております。

20ページをご覧ください。

ここからは、会期終盤に向けた進め方になります。

ここまでご説明させていただきましたとおり、万博TDMの取組が、開催期間中におきましても交通量低減に一定の効果があることが確認できました。

今後は、会期終盤にかけて、万博来場者数の増加が見込まれる中、特に万博会場周辺やOsaka Metro中央線沿線をはじめとする各企業の皆さまへの働きかけが重要になってまいります。

そこで、万博TDMの推進に向けた今後の取組として、3つを挙げております。

1点目が、会期終盤に向けた訴求力の高い広報の実施となります。具体的な内容はこのあと、資料3でご説明させていただきます。

2点目としましては、万博会場周辺やOsaka Metro中央線沿線企業に対しまして、再度、万博TDMへの協力に関するDMを発信してまいります。

3点目としましては、中央線沿線の主要集客施設や万博会場周辺の規模が大きいTDMパートナー企業への働きかけも引き続き実施してまいります。

21ページをご覧ください。

こちらは大阪府市及び博覧会協会におけるTDMの今後の取組方針になります。

Osaka Metro中央線の混雑緩和に寄与する咲洲・ATC部局、博覧会協会職員におきましては、最後の2週間となる10月は7割を取組目標として取り組んでまいります。

さらに、大阪府下全域の交通総量を削減する観点から、大阪府庁や大阪市役所等の職員についても3割を目標にした取組を実施いたします。

22ページをご覧ください。

ここでは、万博関連施策として2つご紹介させていただきたいと思います。

1つ目が「万博TDM推進キャンペーン」でございます。

Osaka Metro中央線のご利用から、比較的混雑が少ないニュートラムへの迂回、かつ時差出勤にご協力をいただいたお客さまに対して、e METROアプリを活用して、Osaka Point をプレゼントする取組でございます。

会期終盤の10月には、より多くのお客さまにTDMにご協力いただくため、通常時の2倍となる60ポイント、往復で120ポイントのプレゼントになります。

23ページをご覧ください。

2つ目といたしまして、「万博TDMタッチ決済キャンペーン」の実施になります。

府市が実施する万博TDMの取組に賛同したカード会社等の協力を得て実施するキャンペーンです。8月18日から閉幕日の10月13日にかけて、キャンペーン期間中の11時から15時59分にOsaka Metroの駅で乗車または降車いただきますと、30%が即時キャッシュバックされるキャンペーンになります。

(2)TDM機運醸成に向けた取組

(事務局)

1ページをご覧ください。

TDMパートナー企業の登録促進対策として昨年度末に募集しました、「大阪ヘルスケアパビリオン催事専用スペースの活用」と「万博TDM出前授業」について、各取組の実施状況をご報告させていただきます。

「大阪ヘルスケアパビリオン催事専用スペースの活用」は、6月から7月にかけて、計12社のTDMパートナー企業において、催事専用スペースを活用し、映像やポスターで自社におけるTDMの取組をPRいただき、TDMの機運醸成に貢献いただきました。

2つ目が「万博TDM出前授業」になります。6月から9月にかけて、計20社のTDMパートナー企業に対し、大阪府市が出前授業を実施しておりまして、その中でミyakumiyakuも登場するなど、TDMの理解促進に努めております。

2ページをご覧ください。

こちらは、「大阪ヘルスケアパビリオン催事専用スペース」での実施風景となります。

催事スペースでありますステージや広場で、映像やポスターを活用して、TDMパートナー企業が実施しているTDM取組を発表いただきました。

3ページは、「万博TDM出前授業」の実施風景となります。

ミyakumiyakuも登場した写真を、各企業の方々がホームページやSNSにアップしていただきまして、TDMの機運醸成に寄与しているものと考えております。

(3)会期終盤に向けた広報

(事務局)

1ページをご覧ください。

前回の推進会議資料の再掲となりますが、これまで、「開幕100日前」、「会期中6月の混雑期」、「お盆明けから最も混雑が予測される会期終盤まで」の大きく3つのフェーズに分けて広報を実施してまいりました。

今後、最も混雑が予測される会期終盤においては、現状のTDMパートナー登録件数ならびに個人の認知度向上の必要性を踏まえ、これまで実施してまいりました交通広告やWEB広告等に加えて、テレビCMによる呼びかけも実施し、会期終盤におけるTDMの取組を強くお願いしてまいります。

2ページをご覧ください。

会期終盤における広報内容になります。

会期終盤の広報には、「海原やすよ・ともこ」のお二人に出演いただき、認知度の飛躍的向上、

情報の拡散を目指してまいります。

交通広告は、Osaka Metro中央線や御堂筋線等における車内のドア横ポスターや車内テレビジョンで展開するほか、スライドの左下写真にございますように、Osaka Metro本町駅の御堂筋線と中央線が交差する連絡通路におきまして連貼りでポスターを掲載してまいります。

経済団体、鉄道・道路事業者、国機関におかれましても、所有する施設や広報誌への掲載もいただいております。改めてご協力に感謝いたします。

そのほか、YouTube等のWeb広告や大阪市公式LINE等のSNSでの発信も引き続き実施してまいります。

3ページをご覧ください。

こちらは参考といたしまして、6月のTDM広報状況を掲載しております。

開幕以降、最初のTDM取組期間であり、改めて、ポスターやチラシ、WEB広告等により広報を実施してまいりました。

4ページをご覧ください。

テレビCMは毎日放送、朝日放送、関西テレビ、読売テレビで、明日から放映開始いたします。

ここで、テレビCMの動画をご覧いただきたいと思います。15秒と短いですが、ぜひご覧ください。

CM動画を投影

(4)今後のスケジュール

(事務局)

2022年12月に立ち上げましたこの交通円滑化推進会議は、本日の開催をもって最後とさせていただきますと考えております。

一方、会期を通じました万博TDMの取組結果はしっかりと整理していく必要があると考えておりますので、11月下旬ごろを目途に幹事会を開催し、学識経験者のもと、総括してまいりたいと考えております。

その後、12月中下旬ごろに、博覧会協会で開催を予定しております来場者輸送対策協議会におきまして、TDMの取組結果について報告させていただく予定でございます。

会長、副会長、委員、会長代行からの発言

(大阪府 吉村知事)

今後、万博の来場者の増加が見込まれる会期終盤にかけて、改めて、万博TDMへのご協力をお願いしたいと思います。

これまで実施してきましたOsaka Metro等の交通広告に加えて、先ほど見ていただきました、テレビCM等広報の強化を図っていきます。

その一つとして、「海原やすよ・ともこ」のお二人にテレビCMなどの広報に出演いただく。

そして、新たな取組として、万博TDMに賛同したカード会社の協力を得て、オフピーク時間帯のキャッシュバックのキャンペーン等も実施して、ぜひ皆さんに活用いただきたいと思います。

府民・市民の皆さま、そして特に万博会場周辺やOsaka Metro中央線沿線で活動されておられる企業の皆さまには、ぜひとも引き続き会期終盤における万博TDMへのご協力をお願いします。

経済団体、国関係機関、そして交通事業者の皆さんにも万博TDMにご協力いただきますとともに、それぞれの機関が所有する施設、あるいは広報誌を活用した万博TDMの働きかけについてもお願いいたします。

本会議については今回が最後ということになります、2022年12月の立ち上げ以降、関係者の皆さまのご尽力に感謝を申し上げます。

そして、この知見については、しっかりと整理をして、今後ビッグイベント等が行われるに際して参考になるように、貴重なレガシーともなと思いますので、整理をお願いいたします。

最後、会期終盤における来場者輸送の円滑化と、そして都市経済活動の両立の実現に向けて、関係者一丸でのご協力をぜひともお願いをしたいと思います。

(2025年日本国際博覧会協会 石毛事務総長)

平素より、大阪・関西万博の運営に、関係各位のご理解、ご協力をいただきましてありがとうございます。それから、8月13日から14日にかけて、Osaka Metro中央線の運行停止の際には皆さまに本当にご協力をいただきまして、この場を借りて心より感謝を申し上げます。

来場者についてですが、先ほど、知事からお話もあったとおり、今月に入って、中下旬から、さらに高いレベルで推移します。10月の会期終盤に向けて、そのような状況がずっと続くという状態になります。

そういう中で、安全かつ円滑な万博来場者輸送と、都市活動の両立を目指すには皆さまのさらなるTDMへのご協力が大変重要になってきます。

博覧会協会としましても、万博TDMパートナーの企業登録、あるいは、府民、県民、市民の皆さまへの広報周知など、吉村知事、横山市長をはじめ、関係者の皆さまともしっかりと取り組んでまいります。

最終盤になっておりますが、引き続き大阪・関西万博の成功に向けて、ご支援、ご協力のほど、よろしく願いを申し上げます。

(関西経済連合会 松本会長)

初めは、TDMはうまくいくのかなと思っていましたが、結果としては非常にいい。私もTDMへの協力を会社の中で進めてきました。経済連のメンバーに取り組んでいるかと聞くと、取り組んでいるという話を聞き、嬉しく思います。

いよいよ、閉幕まで残り1カ月余りです。地下鉄の割合は高いのですが、大きな混雑に至っていないということは、本会議の構成員をはじめ、関係者のご尽力と、市民並びに企業のご理解、ご協力によるものと考えます。

10月13日の閉幕に向けまして、来場者が大幅に増加することが見込まれると思います。新たにテレビCMの放映による広報の紹介もありましたけれども、関経連としましても、会員企業に一層ご協力いただけるよう最大限努力してまいりたいと思います。

(大阪商工会議所 鳥井会頭)

万博TDMの検証結果につきまして、詳しいご説明をありがとうございました。

特にOsaka Metroに具体的な効果が表れたことは、皆さまのご尽力のおかげと思います。今後、一層の告知が必要だと考えております。

私も21万人の来場があった日にプライベートで行ってまいりまして、パーク&ライドを利用いたしました。帰りが遅く、21時半か22時近くになりましたが、西ゲートで待ち時間は40～50分で、非常にスムーズにきました。

今後は大阪商工会議所でも、ホームページのトップ画像、館内のデジタルサイネージ、3万の会員へ向けた機関紙「大商ニュース」で、会期の終盤に向けて広報を強化して、会員企業をはじめとして告知を徹底して取り組んでまいりたいと思います。

(関西経済同友会 永井代表幹事)

来場者数につきまして、博覧会協会の公式データによると、直近の万博関係者の数は1万8000人程度でほぼ一定水準でございますが、一方、一般の来場者は開幕から8月中旬までは1日当たり平均で約11万人、それから8月中旬以降では、これが15万人に増えており、9月6日(土)は過去最高の21万人であったということで、閉幕に向けて、愛知万博同様、駆け込み来場が増える特別なフェーズに入ったのかなと捉えております。

また、今朝の公式のウェブサイトによる9月末までの来場予約枠につきましても、西ゲートについては昼夜ともほぼ空きがない。それから東ゲートについては、9時台と12時台に残り枠がわずかであるという状況で、依然としてOsaka Metroの輸送に負担がかかる状況が続くことが予想されます。

関西経済同友会といたしましては、ホームページでの継続的な協力要請の情報発信とともに、会員の所属する企業、それから、特にOsaka Metro中央線沿線や万博会場周辺に立地する企業に向けてまして、TDMへの協力の働きかけをさらに強化したいと思います。

(近畿経済産業局 信谷局長)

私ども近畿経済産業局では、近畿2府5県の荷主企業等に対して、私どものメールマガジン等を活用しながらTDMの協力を求めていると考えております。

また、私ども自身につきましても、職員の出勤調整、あるいは庁内会議のオンライン対応などを進めてまいります。

(近畿地方整備局 西野部長)

近畿地方整備局では、昨年度より関係建設業団体に対しまして、TDMパートナーへの登録の協力依頼を行ってまいりました。また、大阪市内に勤務する近畿地方整備局の職員においては、6月及び8月のお盆以降、現在も万博TDMに取り組んでいるところでございます。

近畿地方整備局といたしましても、引き続き、今後最も混雑すると予想されている会期末まで、関係機関とより一層連携し、TDMの取組や企業などへの働きかけに協力してまいりたいと考えております。

(近畿運輸局 服部局長)

まずは、開幕からこれまで、万博来場者の安全かつ円滑な輸送が概ね実現しており、喜ばしく思っております。

8月13日に発生したOsaka Metro中央線の輸送障害に際しても、情報発信の面ではともかく、代替輸送につきましては、博覧会協会、それからOsaka Metro、バス、タクシーの関係者の皆さまのご尽力によって、でき得る限りのことはいただいたと評価しております。改めて感謝申し上げます。

本日の会議のご報告を拝聴し、万博TDMなど、事業者さまの柔軟な対応について一定の成果が出ていると感じました。

なお、近畿運輸局でもTDMの取組は実践しており、6月には谷町四丁目の本局に出勤する職員の目標3割のところ、46%が時差出勤等を行いました。また、物流という観点からも、関連団体を通じて事業者さまへTDMパートナーへの登録やTDMの取組について依頼をしております。

盛況である大阪・関西万博もいよいよ会期末に向けてラストスパートの時期となってまいりましたが、近畿運輸局としても最後までしっかりとTDMに取り組むとともに、輸送を安全かつ円滑に進めていただくために、交通を所管する行政官庁として関係者ともよく連携してまいります。

(関西鉄道協会 井上会長)

本日も説明いただきました開催期間中のTDMの各取組の結果、交通量の低減に対して一定の効果があるということがよく確認出来ました。

そのことを踏まえまして、会期終盤の最混雑期に向け、会場周辺の鉄道会社の沿線企業の皆さまへのさらなる広報がますます重要と考えております。

それらの手段といたしまして、私どもも車両内のテレビジョンや広告枠、それから駅構内でポスターを掲出するなど、認知手段の向上に努めてまいりたいと考えております。

また、私どもの会員が保有いたしますホームページやSNS等のオウンドメディアを活用しまして、会員各社間で連携して情報の発信に努めてまいりたいと考えております。

ご来場、ご帰宅されます皆さまを「安全・円滑」にお運びすることが我々の使命だと考えておりますので、引き続き関係各位の皆さま方のご協力もお願いしたいと考えております。

(近畿バス団体協議会 田内専務理事)

私どもバス事業者の立場といたしましては、開幕当初から鉄道アクセスルートの混雑の報道が多くさんされ、バス利用者が徐々に増加傾向にあります。現在は、当初の予定便数以上に運行便数を増やして、日によって増便を出して対応している状況でございます。

また、これから閉幕まで32日ほどになりますが、今後、道路状況によって円滑に輸送できるのが一番危惧しているところでございます。道路が混雑すると、桜島からのシャトルバスをはじめとする各主要駅からのバス、また空港直行バス、中長距離のバス、パーク&ライドバスと、いろいろな運行がダイヤどおりに行かなくなると想定した輸送量が確保できないという形で、安全・円滑に輸送することが著しく困難になってきます。

また、渋滞というのは事故のリスクを高めることにつながりますので、自動車交通の特性から、特に混雑する日、また時間帯に関しては注意が今後必要になってくると思います。

また、来場者の皆さまを安全・円滑に輸送できるよう、精いっぱい、近畿バス団体協議会を挙げて取り組んでまいります。つきましては、皆さま方のご協力が不可欠でありますので、引き続きどうかよろしくお願い申し上げます。

(大阪市 横山市長)

本日は皆さま、ご多忙の折、ご参加賜りまして本当にありがとうございます。また、この間もTDMの取組にお力添えいただきました本会の委員の皆さま、またパートナー企業の皆さま、本当に皆さんに感謝を申し上げます。

ご説明いただいた資料では、6月、8月に実施されたTDMの取組期間については、鉄道について目標の混雑率を下回る結果、また会場周辺道路についても交通容量に一定の余裕があるということが確認されました。

また、広報ですが、テレビCMも作成いただいて、また媒体の出稿も強化しながら集中的に実施していきたいと思います。

Osaka Metroで実施していただくニュートラムへの迂回利用のポイント付与ですが、最混雑期の10月につきましては、1回30ポイントのところを2倍の60ポイントが付与されるということで、ぜひこちらも多くの皆さまにご利用いただきたいと思います。

周辺道路を管理する大阪市としましても、会期終盤に向けまして、舞洲工場のごみ収集車の搬入抑制の強化やコンテナターミナルゲートの時間延長によるコンテナ車両の来場時間の平準化といった道路交通の円滑化にも万全を期すこととしております。

いよいよ残り最終盤となってまいりました。さまざまな手を尽くして来場者の安心・安全な来場、

そして、万博を盛り上げる形で終幕に向けて全力で取り組んでいきたいと思いますので、引き続き委員各位におかれましてはどうかお力添えのほど、よろしくお願い申し上げます。

（事務局）

ありがとうございました。

以上をもちまして、2025年大阪・関西万博 交通円滑化推進会議（第5回）を終了させていただきます。

以上